

概 報

551.761 (522.7)

宮崎県高千穂町に発見された下部三疊系

神戸信和* 齋藤正次*

The Lower Triassic Discovered in the Takachiho District, Miyazaki Prefecture

By

Nobukazu Kambe & Masatsugu Saitō

Abstract

This district lies in the Paleozoic terrain traversing the central part of Kyūshū Island. Triassic fossils of pelecypods and an ammonite are newly found from a small outcrop of limestone, which stands close by a large bed of Permian fusulinid-limestone and appears as if a part of the bed. The pelecypods obtained are almost the same in species with those of the fauna which is reported from the Kurotaki limestone in Shikoku Island, and is assigned as Skytic in age. The structural relation between the Triassic outcrop and the nearby Permian rocks is not yet clear.

5万分の1地質図幅「三田井」の調査によつてその地域内に三疊系が存在することがわかつたので、とりあへず報告する。位置は九州中央部の宮崎県西臼杵郡高千穂

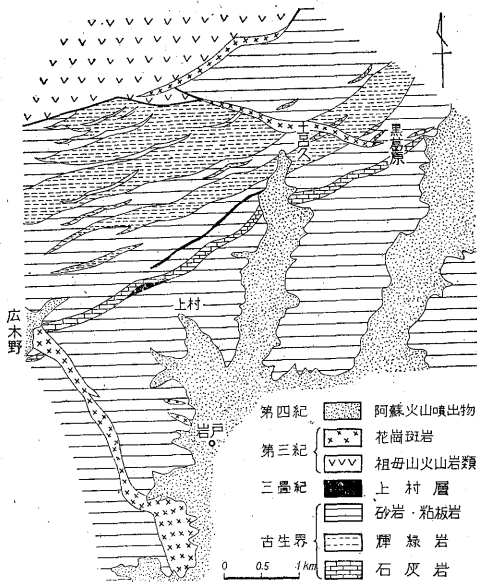
町(最近の町村合併以前は岩戸村)地内である。

三田井図幅は未出版であるが、この地方の地質に関しては筆者らがさきに発表したことがある²⁾。本文に関係ある地区の地質図を掲げておく。この地方には外帯の古生界が広く分布し、その北には祖母山を構成するおそらく新第三紀に属する火山岩があり、この境および古生界地帯内には同じく新第三紀と思われる花崗斑岩が岩脈をなしている。またこの地方の谷間は阿蘇火山から噴出した熔結凝灰岩などで満たされている。古生界には石灰岩があり、そのうちにはすでに報告されているように¹⁾³⁾⁵⁾の紡錘虫化石を含むものがある。問題の三疊系は石灰岩からなり、上記の古生界の紡錘虫石灰岩の1つに接してあたかもその一部であるかのようにみえる。

天岩戸神社があることで有名な岩戸部落の北西方の谷間に上村部落^{かむら}があり、その谷のさらに上流700mほどの地点の北東側に、石灰岩からなる高さ4~5m、延長未詳の露頭がある。この石灰岩は灰白色を呈し、堅硬・緻密で、方解石脈に富む。露頭面には二枚貝化石が重なり合っている断面が観察される。これから採取した標本から、神戸はさしあたり次のような貝化石5種と菊石1個とを鑑定している。

Eumorphotis cfr. *multiformis* (BITTNER) var.

“*Entolium*” cfr. *discites* (v. SCHLOTH)



第1図 地質図

* 地質部

cfr. *Pleuromectites* sp.

Gervilleia cfr. *exporrecta* (LEPS.)

Anodontophora cfr. *canalensis* CAT.

Ammonite gen. et. sp. indet.

これらの化石は、菊石を除けば、四国の高知県黒滝の石灰岩から産する下部三畳系の化石群²⁾⁷⁾⁸⁾にほぼ同定され、また *Eumorphotis* cfr. *multiformis* (BITTNER) var., *Anodontophora* cfr. *canalensis* CAT. を含むことは関東山地の山中地溝帯の塩沢石灰岩の化石群²⁾⁷⁾⁸⁾と似ている。この上村の露頭で代表される下部三畳系を上村層と呼ぶことにする。

この露頭の周辺には、露頭の石灰岩とは性質を異にし、暗灰色でやゝ泥質を帯び、かつ概して脆い石灰岩からなる転石が多数散在している。この転石は、紡錘虫化石 *Neoschwagerina* および *Yabeina* を含み、二畳系のものである。この地点附近で谷を横断して東北東から西南西に走り、黒葛原^{つづら}から広木野にわたって延長約 6 km の間追跡される長大な石灰岩層があり、今回の調査においても、また、かつての報告¹⁾によつても、この石灰岩層は紡錘虫化石を含むことが知られている。上述の転石はこの石灰岩層から崩落してきたものである。この二畳系の石灰岩層と上村層の石灰岩露頭との関係はまだよくわかっていない。また上村層についてもこの露頭以外には、たとえば分布、構成岩類、囲りの古生界との関係は明らかでない。

上村層の化石の同定に際しては、東京大学の小林貞一教授の御教示と東京教育大学出身の矢部之男学士の御鑑察とを賜わつている。また二畳系の紡錘虫化石の同定は、地質調査所の礒見博技官にお願いした。以上記して深く御礼申し上げる。(昭和28年調査)

追記： 本文の脱稿後、昭和32年に現地を再踏査する機会があつた。その結果によると、上村の北東に隣接する谷(皿糸と呼ばれる部落のある谷)に沿つて新設された自動車道路の切り割りにも、紡錘虫石灰岩層に伴なつて貝化石を含む石灰岩がよく露出していることがわかつた。そして、貝化石石灰岩は紡錘虫石灰岩層の北側、

見掛上の直上位を占めていて、この間には不整合も断層も認められない。

なお、本文の挿図で上村層が古生界石灰岩層の南側に位置することになつているのは誤りであり、北側を占めるのが正しい。

文 献

- 1) 飯坂五郎：宮崎県土呂久鉦山附近の石灰岩に就いて、地質学雑誌, Vol. 40, No. 229, 1933
- 2) Ichikawa, K. & Yabe, Y. : *Eumorphotis multiformis shionosawensis* subsp. nov. from the Shionosawa Limestone at Shionosawa, North of the Sanchu Graben, Kwanto Mountainland, Japan, Trans. Proc. Palaeont. Soc. Japan, N. S., No. 17, 1955
- 3) Konishi, K. : Restudy on Some "*Pseudoschwagerina*" in Japan, Jour. Geol. Soc. Japan, Vol. 59, No. 696, 1953
- 4) 松下 進：土佐に於ける下部三畳紀の化石, 地球, Vol. 5, No. 5, 1926
- 5) 宮崎県：宮崎県北西部五箇瀬川・耳川上流地方地質図(縮尺10万分の1)および説明書, 斎藤正次, 神戸信和, 井上正昭, 木野義人調査, 1955
- 6) 宮沢俊弥：宮崎県岩戸鉦山の鉦床及びその附近の地質に就いて, 地質学雑誌, Vol. 47, No. 556, 1940
- 7) 鹿間時夫：山中地溝帯の下部三畳紀層, 地質学雑誌, Vol. 58, No. 686, 1952
- 8) Yabe, Y. : Early Triassic Mollusca from Shionosawa in the Sanchu Graben, Kwanto Massif, Japan, Sci., Rep. Tokyo Kyoiku Daigaku, Sect. C. No. 39, 1956